



# 日本統計学会 会報 2008.4.25

No.  
135

発行——日本統計学会  
〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2階  
(財)統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局  
Tel & Fax : 03-5467-0483  
編集責任——田中 勝人(理事長) / 川崎 能典(庶務理事)  
坂本 亘(広報理事) / 福地 純一郎(広報理事)  
振替口座—00190-2-61361  
銀行口座—みずほ銀行広尾支店普通 1092212番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

## 目次

- |   |                             |
|---|-----------------------------|
| 1. 巻頭随筆：21世紀COEプログラム「機能数理学の構築と展開」の取組と社会に果たす役割<br>.....小西貞則... 1         | 5. スタンフォード滞在記.....鳥越規央... 8 |
| 2. 2008年度統計関連学会連合大会について<br>.....清水邦夫... 3                               | 6. 評議員会議事録.....10           |
| 3. 「日本統計学会春季集会2008」の報告<br>.....田中勝人... 6                                | 7. 理事会議事録.....12            |
| 4. 「第13回日本統計学会賞」, 「第4回統計活動賞」,<br>「第4回統計教育賞」受賞候補者の推薦募集<br>.....田中勝人... 6 | 8. 博士論文・修士論文の紹介.....15      |
|   | 9. 研究集会案内.....20            |
|   | 10. 新刊紹介.....20             |
|   | 11. 学会事務局から.....21          |
|   | 12. 投稿のお願い.....21           |

## 会員の皆様へのお知らせ

1. 2008年度統計関連学会連合大会のお知らせが今号に掲載されています。
2. 正会員・名誉会員には、評議員選挙のお知らせが同封されています。

## 1. 巻頭随筆：21世紀COEプログラム「機能数理学の構築と展開」の取組と社会に果たす役割

小西 貞則 (九州大学)

21世紀COEプログラムは、「大学の構造改革の方針」に基づいて平成14年度から文部科学省の事業として措置されたもので、標記のプログラムは、平成15年度の事業として「数学、物理学、地球科学」の部門に応募し、採択されたものです。平成20年3月をもって、九州大学大学院数理学研究院・数理学府の研究教育拠点形成を目指した5年間の事業をひとまず終了するにあたり、これまでの大学院教育を中心とした取組を

紹介させていただき、ご意見を伺うとともに、今後の教育改革の一助にでもなればと思います。

数理学研究院は、平成6年度(1994年度)に九州大学における大学院重点化の先駆けとして設置された数学の研究・教育組織ですが、その前進である旧理学研究科数学専攻の時代から、20世紀の統計科学、情報科学、計算機科学の発展に大きく寄与した人材を輩出してきました。伝統を受け継ぐだけでなく、さらなる飛躍を目

指して、社会の中で役立つ数理学の構築、科学としての数学の展開を念頭において、COEプログラム「機能数理学の構築と展開」(中尾充宏拠点リーダー)が生まれました。まさに数学・数理学の諸科学、産業技術の基盤を支える学問体系構築を目指し、社会的要請に的確に応えるための研究・教育の拠点形成を目指したものでした。

当時の応募申請計画調書には、研究の視点から「本研究拠点は、計算数理、統計数理、離散数理の3プロジェクトを機軸として、諸科学との連携を深めながら、学際的科学としての独創的・先駆的な数理学の研究を推進し、新たな数学・数理学の理論を創造・展開する。」と述べ、また、教育の視点からは「社会的ニーズを的確に把握・認識してこれを教育に生かすことによって、若手研究者・数理技術者の育成を図り社会貢献を果たしていく。」と述べています。ここでは、これまでの研究教育への取組、特に、若手機能数理研究者・技術者の育成に関するいくつかの試みを紹介させていただきます。

#### 新博士後期課程「機能数理学コース」の創設

本COEプログラムの目的の一つである機能数理研究者・技術者の人材育成を念頭に検討を重ねてきた結果、平成18年4月から大学院数理学府に新博士課程「機能数理学コース」を実現し、大学院生の受入を開始しました。本コース修了者に対しては、数学に関する新しい博士である「博士(機能数理学)」の学位を授与します。

その特徴的カリキュラムの一つに産学連携にもとづく3ヶ月以上の長期インターンシップが必修単位として課せられていることが挙げられます。平成18年度は、博士後期課程の院生9名が、日立製作所、NTT、宇部興産、三井造船、東芝セミコンダクター社、大日本インキ化学、日本IBMの協力のもとに、また平成19年度は9名の院生が、富士通、パナソニック、NTT、ゼッタテクノロジー、東芝、日新火災海上、宇部興産、マツダの協力のもとにインターンシップを実施し、教育と研究に関して大きな成果を挙げることができました。インターンシップ受け入れ企業へそのまま就職した

院生もいます。取り組んだ課題が共同研究へと結びついた院生もいます。インターンシップで取り組んだ課題の多くは統計的問題と関連しており、統計教育の重要性を改めて認識することにもなりました。

また、インターンシップを通して諸科学との接触を図ると共に、社会的ニーズを把握し、産業界における数理的業務の実際を知るために、諸分野の先端科学の研究者・技術者、企業等で活躍している人材を講師として招き、実務的講義(必修科目)を用意しています。さらに、インターンシップを実施するにあたり、計算機技法の能力を身につけるための講義・演習も行っています。

本COEの産学連携による人材育成活動の一環として開始した長期インターンシップは、日本の博士課程における数学教育の一つの方向性を示すものであり、具体化に向けたこれまでの取り組みは、数学に関わる高等教育機関に重要な情報を提供できるものと考えます。

#### 産業技術が求める新修士養成

現在、数理学府では、博士課程への取り組みと併行して、まったく新しい修士養成コースの設置を推進しています。これは、産業界をはじめ社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材の育成に優れた教育の取組を進める大学院に対して重点的支援を目的として、平成19年度からスタートさせた文部科学省の「大学院教育改革支援プログラム」に採択された本数理学府の「産業技術が求める数学博士と新修士養成」(若山正人代表)に関わるものです。その特徴的な取組は、MMA(Master of Mathematics Administration)コースの設置とその育成計画にあります。MMAは、MBA(Master of Business Administration)の工学・技術版として国際的な認知が高いMOT(Management of Technology)の数学版といえる修士課程の新しい教育コースです。その目的は、数学が背景にある基礎研究の意義を理解し、研究開発のコーディネートやマネジメントを大局観と長期的視野をもってあたることのできる人材を育成することにあります。平成21年度から新入生受入を目指して、

現在、具体的なカリキュラムの策定が行われているところです。

### 産業技術数理研究センター

修士課程におけるMMAコースと博士後期課程における機能数理学コースを柱として、本格的な産業技術数理研究者・技術者の育成を図っていく上で重要な役割を果たすのが、「産業技術数理研究センター」です。本センターは、平成19年4月1日から学内共同教育研究施設として発足し、「機能数理学」、「技術数理」の2研究部門と「研究教育支援」部門をもつ計3部門からなり、社会連携研究、若手研究者、機能数理技術者の育成を強力に推進することになりました。特に、研究教育支援部門では、九州大学知的財産本部の協力を得て、産学連携による質の高い博士課程長期インターンシップを企画運営し、多様なキャリアパスをもった高度な数理の人材育成の支援活動を行っ

ています。また、センターには、技術相談窓口を設けており、産業技術に関する数理工学の問題の相談を学内外に広く受け付けています。相談窓口を設けて日は浅いのですが、統計的な相談が大半を占めています。

以上、ご紹介いたしましたように、修士課程においてはMMAコースを設置し大学院生を教育・育成し、博士後期課程においては、機能数理学コースを柱として、本格的な産業技術数理研究者・技術者の育成を図って行くものです。科学としての数学・数理工学の展開と発展にさまざまな取り組みを行っている九州大学大学院数理工学研究院・数理工学府が、一つの道筋を付けていることは確かです。この取り組みが、純粋数学の教育・研究が中心であったわが国において、数学の科学技術への応用を本格的に目指すためのモデルとなればと考えています。

## 2. 2008年度統計関連学会連合大会について

### プログラム委員会委員長

清水 邦夫（慶應義塾大学）

2008年度の大会は、東急東横線の渋谷駅と横浜駅の間に位置する日吉駅から徒歩で約15分の慶應義塾大学矢上キャンパスで行われます。日吉駅とキャンパス内の会場との間には少しの坂がありますが、ちなみに私は、行き帰りにこの坂を登るときの状態を日頃の運動不足の程度を知るバロメーターとして利用しています。なお、日吉駅（商店街側）からタクシーを利用することができます。2008年は、奇しくも慶應義塾創立150年、また横浜港開港150年まであと1年という年に当たります。このようなときに矢上キャンパスで開催される連合大会のプログラムを企画できることは、巡り合せとはいえ、大変に幸運と思っています。さて肝心の点の、大会開催日程・場所等については、以下の通りとなっています。

**開催日程：**2008年9月7日（日）～10日（水）までの4日間（9月7日は、チュートリアルセッションと市民講演会のみ）

**開催場所：**慶應義塾大学矢上キャンパス

<http://www.st.keio.ac.jp/index-jp.html>

横浜市港北区日吉3-14-1

（電話：045-563-1141（代表））

（最寄り駅は、東急電鉄東横線日吉駅と横浜市営地下鉄グリーンライン日吉駅です。なお、駐車スペースの関係上、自家用車でのご来場はお控え下さい。キャンパス内は禁煙ですが、若干の喫煙可能エリアがあります。）

**共 催：**応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会（五十音順）

**協 賛：**日本分類学会

なお、懇親会は9月9日（火）に

日吉キャンパス内Green's Marche

(<http://www.keio.ac.jp/access/hiyoshi.html> では【8】グリーン食堂と表示：日吉駅から徒歩約3分)で行われます。同会場で、懇親会直前に、コンペティション最優秀報告賞および優秀報告賞受賞者表彰式が行われる予定です。今後、連合大会のWebページ <http://www.jfssa.jp/taikai/> に関連情報や詳細情報が随時掲載されますので、合わせてご覧いただくと幸いです。以下に、プログラム委員各役割分担者の協力を得て大会に関する若干の事柄をまとめましたので、ここに記載します。

### 1. 講演の申込み

講演は「一般講演」、「企画セッション講演」、「コンペティション講演」の3種類からなります。申し込み方法は、すべての講演に共通の事項と講演ごとに異なる事項がありますので、ご注意下さい。各講演の詳細につきましては、連合大会のWebページを参照して下さい。

#### (i) すべての講演に共通する事項

講演をご希望の方は、上記Webページからお申し込み下さい。その他の申し込み方法はありません。申し込み期間は2008年5月12日(月)9:00から6月3日(火)17:00までです。Webページ上で、「一般講演」、「企画セッション講演」、「コンペティション講演」のいずれかを選択して下さい。

#### (ii) 「一般講演」に関わる事項

通常の講演は「一般講演」として講演者がお申し込み下さい。Webページ上の講演申し込み手順にしたがって申し込みをして下さい。プログラム編成の際の参考にしますので、最大3個までのキーワードを、重要視する順に選択願います。

#### (iii) 「企画セッション講演」に関わる事項

オーガナイザーによる一括申し込みとします。

#### (iv) 「コンペティション講演」に関わる事項

今回で6回目を迎えるコンペティション講演の参加資格は、2008年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者です。所属(大学院生、教員、社会人など)は問いません。連名講演の場合、コンペテ

ィション対象者は実際に口頭発表する方です。なお、講演の申し込み時点で、発表者は、共催5学会のいずれかの会員でなければなりません(ただし、申し込みと同時に入会手続きをする方も含みます)。昨年と同様に事前審査は行わず、コンペティション講演を申し込まれた方皆さんに大会当日に講演していただきます。詳細は連合大会のWebページに掲載される「コンペティション講演のご案内」をご覧ください。

### 2. 講演報告集用原稿の提出

報告集用原稿はA4で1ページです。提出方法としましては、Webページから電子ファイル(PDF形式)を提出する方法が基本ですが、紙原稿を郵送する方法もあります。いずれの方法でも、原稿提出期間は6月16日(月)9:00から7月7日(月)17:00まで(紙原稿の場合も必着)です。厳守をお願いします。なお、紙ベースでの原稿郵送先は

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3  
東京理科大学理学部数理情報科学科  
瀬尾 隆 宛

です。

希望者は、報告集用原稿とは別に詳細論文(CD-ROMに収録)をA4で最長10ページまで提出できます。論文はPDF形式(ファイルサイズは1MB以内)でメールによりプログラム委員会宛(jfssa2008cdrom@yahoo.co.jp)にお送り下さい。

報告集用原稿および詳細論文の執筆要項につきましては連合大会Webページをご覧ください。「企画セッション講演」の報告集用原稿の提出はオーガナイザーが一括して行って下さい(この点は昨年度と異なっていますので、ご注意願います)。したがって、企画セッション講演者の方はオーガナイザーによる原稿提出が締切りに間に合いますようにオーガナイザーに原稿をお送り下さい。よろしく申し上げます。

### 3. 企画セッションのご案内

現時点において、全部で12件の企画セッション

が設けられています。テーマとオーガナイザー（敬称略）の氏名（所属）は以下の通りです。テーマのねらいや講演者・講演タイトル等につきましては連合大会のWebページをご覧ください。なお、下記において記載の順番に特別な意図はありません。企画セッションの運営はオーガナイザーに一任していますので、企画セッションにおける講演者で質問等がおありの方は直接オーガナイザーにお問い合わせ下さい。なお、セッションの日程はプログラム委員会が決定することとします。

- センサ統計と統計レジスター [濱砂 敬郎 (九州大学)]
- 統計科学とマーケティング [阿部 誠 (東京大学)・照井 伸彦 (東北大学)・佐藤 忠彦 (筑波大学)]
- 政府統計データの二次利用の課題 [勝浦 正樹 (名城大学)・西郷 浩 (早稲田大学)]
- 初等中等及び高等教育における統計教育の現状と展望－新学習指導要領を踏まえた体系的な教育システムの構築を目指して－ [竹村 彰通 (東京大学)・竹内 光悦 (実践女子大学)]
- 計算機とWeb・統計環境 [山本 義郎 (東海大学)・飯塚 誠也 (岡山大学)]
- 線形代数に基づく行動計量学研究の展開 [足立 浩平 (大阪大学)・柳井 晴夫 (聖路加看護大学)]
- 医薬品の有効性・安全性評価のためのカウントデータの統計解析 [岩崎 学 (成蹊大学)]
- 統計メタウェアの開発 [石黒 真木夫 (統計数理研究所)・田村 義保 (統計数理研究所)]
- 統計科学とゲノム科学の共進化 [井元 清哉 (東京大学)・樋口 知之 (統計数理研究所)]
- 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演 [岩崎 学 (成蹊大学)]
- 日本統計学会各賞受賞者講演 [北川 源四郎 (日本統計学会会長)]
- 応用統計学会各賞受賞者講演 [岸野 洋久 (東京大学)・西井 龍映 (九州大学)]

#### 4. チュートリアルセッションのご案内

チュートリアルは、1会場にて、つぎのように行うことを予定しています。

日 時：2008年9月7日（日） 13：00－18：00  
（12：30より受付開始）

場 所：慶應義塾大学矢上キャンパス11棟31教室  
（予定）

講演者・演題（敬称略）：

13：00－15：00 手良向 聡（京都大学）

メタアナリシスの統計方法論

15：30－18：00 豊田 秀樹・岩間 徳兼・竹下 恵・久保 沙織（早稲田大学）

構造方程式モデリング－3次までの積率構造の理論と応用－

なお、講演時間について多少の変更があり得ますことをご了解下さい。

#### 5. 市民講演会のご案内

下記のテーマについて、講演会および展示・体験ブース等の開設を予定しております。参加費は無料です。

日 時：2008年9月7日（日） 13：30－17：00  
場 所：慶應義塾大学矢上キャンパス創想館地下2階マルチメディアルーム

テーマ：「情報社会と統計教育～私たちの暮らしを支える身近な統計～」

講演者・演題（敬称略）：

川崎 茂（総務省統計局長）

私たちの暮らしと統計－統計は国民の共有財産－

長尾 篤（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）

指導要領改訂で重要視された統計活用力－理数系科目に関する今回の改訂の考え方－

吉村 功（東京理科大学教授）

統計家が考える数理リテラシー－「豊かに生きるための智」プロジェクトでの議論より－

展示・体験ブース：11：30－17：30（14棟203教室、204教室を予定）

“ようこそ、統計の世界へ”

(協力：総務省統計局，政策統括官)  
“BB弾によるサンプリング実験，トースター&スタッツ”  
(協力：統計数理研究所)  
“シミュレーション統計グラフ体験：マルチメディア統計百科事典”  
(協力：日本統計協会)  
“統計グラフコンクール優秀ポスターの紹介”  
(協力：全国統計協会連合会)  
“使ってみよう国勢調査G-Censusシステム”

(協力：統計情報研究開発センター)  
“海外での統計教育事情～スクールセンサスの紹介”  
(協力：日本統計学会統計教育委員会，統計教育分科会)

\*市民講演会は，平成20年度文部科学省科学研究費（研究成果公開促進費）補助事業として実施いたします。

### 3. 「日本経済学会春季集会2008」の報告

田中 勝人（日本経済学会理事長）

標記の集会が2008年3月1日（土）に成城大学で開催され，関係者のご協力により，無事に終了することができました。今回は，3つのプレナリーセッション「統計理論の新展開」，「バイオインフォマティクスの話題から」，「計量ファイナンス－金融リスクの統計科学」の他に，ポスターセッションも企画され，4名の発表がありました。集会の参加者は82名（去年は112名）で，去年に引き続き，日本統計学会独自の交流の機会をもつことができました。集会後の懇親

会にも30余名の会員が参加して，楽しいひとときを過ごしました。

今回の春季集会の参加者は，昨年を下回る結果となりました。来年以降の開催については，開催時期の検討，会員への周知，興味あるトピックの選定，ポスターセッションの拡充などに配慮して，より多くの会員が参加できるような集会をめざして行く必要があると思っています。ご意見，ご要望等ありましたら，shom@jss.gr.jp宛にお寄せいただけたら幸いです。

### 4. 「第13回日本統計学会賞」，「第4回統計活動賞」， 「第4回統計教育賞」受賞候補者の推薦募集

田中 勝人（日本統計学会理事長）

「第13回日本統計学会賞」，「第4回日本統計学会統計活動賞」，「第4回日本統計学会統計教育賞」の受賞候補者推薦を下記により募集いたします。

各賞の推薦締め切りは2008年6月13日（金）です。推薦書の宛先は下記の通りです。封筒に「～賞推薦書在中」と朱書してください。なお，推薦書は日本統計学会のホームページからダウンロードできます。

【宛先・照会先】

（財）統計情報研究開発センター 日本統計学会係  
〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F  
Tel & Fax：03-5467-0483  
E-mail：shom@jss.gr.jp

【対象範囲】

各賞受賞の対象となる者は，その年齢，性別，国籍，日本統計学会の会員・非会員の別を問わ

ない。なお、統計活動賞および統計教育賞については個人のみならず、グループや団体も受賞対象になる。

#### [推薦方法]

各賞受賞対象者の選考は、会員の推薦を受けて、それぞれの賞の選考委員会が実施する。

受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。推薦者は各賞所定の書式にしたがって推薦する。

#### [発表]

各選考委員会は、その結果を評議員会および学会総会において報告し、大会期間中に授賞式を行う。

なお、各賞の概要と規程を以下にご紹介します。

### 日本統計学会賞

#### [名称]

日本統計学会賞

#### [趣旨]

統計学の研究及び普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

#### [対象範囲]

対象とする分野は次のとおりとし、全体として年間3名程度に授与する。

- 理論統計学の理論の発展に多大な貢献のあった者。
- 実証・応用・計算；この分野は以下のような内容を含む。
  - (1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。
  - (2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。
  - (3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。

(4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

#### [選考方法]

推薦者は対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。受賞対象者の選考は、会員の推薦を受けて、選考委員会が実施する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- 日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、および会長が推薦し評議員会が承認した者若干名。
- 選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

#### [賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。副賞は、原則として「統計学の学会活動60周年記念基金」の果実の範囲とする。

### 統計活動賞

#### [名称]

日本統計学会統計活動賞

#### [趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

#### [対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動である。授賞対象は、毎年2件以内とする。

- (1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等）。
- (2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。
- (3) 新たな研究領域・分野の開拓。
- (4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

#### [選考方法]

授賞対象となる活動は、日本統計学会に設けた選考委員会が会員からの推薦を受けて選考する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

- 日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、および会長が推薦し評議員会が承認した者若干名。
- 選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

#### [賞の内容]

授賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

### 統計教育賞

#### [名称]

日本統計学会統計教育賞

#### [趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

#### [対象範囲]

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とし、日本統計学会の会員・非会員の別、国籍を問わない。授賞対象は、毎年2件以内とする。

- (1) 統計教育に関する著書、論文。
- (2) 統計教育の実践。
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、教材等の開発。
- (4) 統計の普及、啓蒙
- (5) その他統計教育の発展に寄与する活動。

#### [選考方法]

授賞対象者は、日本統計学会に設けた選考委員会が会員からの推薦を受けて選考する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

- 日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、および会長が推薦し評議員会が承認した者若干名。
- 選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

#### [賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

## 5. スタンフォード滞在記

鳥越 規央（東海大学）

大学の長期研究留学研究派遣計画に応募し、採択されたことを受けまして、2007年4月から翌年3月までの1年間、スタンフォード大学統計学科にVisiting Research Scholarという形でお世話になりました。まずはこの留学に際し、計画を採択してくださいました東海大学と、留学先などの紹介にご尽力くださいました筑波大学の赤平昌文教授に感謝いたします。

スタンフォード大学はサンフランシスコの南方、いわゆるシリコンバレーの中核に位置し、全米でも有数の広大なキャンパスを所有する総合大学であります。1891年に創立したこの大学に一歩足を踏み入れると、そこには歴史の重み

を感じる建物群や庭園が目にはいってきます。石造りの建造物とそれを取り巻く回廊は、中世のヨーロッパの様相を呈しつつ、どこことなくアジアの寺院の雰囲気をも醸し出しています。さながら多種多様な民族が集う大学を象徴しているかのようであります。実際、スタンフォード大学には外国籍の方が3割在籍しているそうです。

アメリカ大陸初上陸で、右も左も分からぬ状況にある私を、最初に迎えてくださったのは、学科マネージャーのNora Hamer氏と国際センターのスタッフの皆様でした。Hamer氏には学科のシステムや研究室のデスクの案内、コンピュータ

アカウントの取得などについて、懇切丁寧に指導していただきました。また国際センターのスタッフの方々は、ヒアリングに慣れていない私にも分かりやすい英語で、書類の手続きや生活面のアドバイスなどを説明していただきました。ちなみに国際センターでは、週1回英会話教室が開催されていて、事前の予約なしに、参加できるようになっています。

統計学科や数学科が主催するセミナーはほぼ毎日開催されていて、内容も基礎理論から応用まで多種多様であります。月曜が確率セミナー、火曜は統計セミナー、木曜は生物統計ワークショップ、金曜が金融工学セミナー、そして不定期ではありますが水曜は基礎統計数学セミナーというようなスケジュールです。私は主に統計セミナーに参加していました。このセミナーでは、スタンフォードのスタッフ、院生はもちろんのこと、他大学や企業から招待されたゲストも多数、講演を行っています。推定量、線形モデルから機械学習まで幅広いトピックスを扱っていますが、内容としては数理統計系の話題が多めという印象であります。また年2回、カリフォルニア大学バークレー校の統計学科との合同セミナーも開催され、互いの大学のスタッフや学生が交流を深めています。いずれのセミナーも多数の参加者が集い、その熱気に圧倒されるばかりです。なおセミナーの講演者やその概要は大学のホームページからも閲覧することができます。(http://www-stat.stanford.edu/seminars/index.html)

セミナーの前後には30分ほどのティータイムがあり、学科のスタッフや学生がフルーツやスコーンの置いてあるテーブルを囲んで談笑し、コミュニケーションをとっています。また年度末やクリスマスやハロウィンなどの年中行事の際には学科でミニパーティを開催しています。特にハロウィンのときはスタッフや学生のファミリーも参加できるように、ホストとして学科chairmanのHastie教授がバイキングの変装で出迎えていたのは、とても微笑ましく感じました。

さすがにシリコンバレーの中核にある大学だな

と感嘆したことがあります。それは統計学科と企業の合同セミナーです。シリコンバレーを拠点とする有名企業から研究者が大学を来訪し、学科に在籍する博士課程の院生や研究生と一緒に研究会を行うというものです。昨年はYahoo!, Google, そしてAll State (アメリカ最大の保険会社) といった企業の研究者が参加し、彼らは統計理論がからんだ事業や研究に関するトピックスを語っていました。また大学側の参加者は、自分の研究についての発表を行っていましたが、学生の発表時に配布されるアブストラクトには自身の履歴書が添付されていました。つまりこの研究会は就職支援活動を兼ねたセミナーでもあったわけです。ちなみにYahoo!やGoogleの創設者はスタンフォード大学卒だと聞いています。

教育についても触れておきましょう。ちょっとした暇を見つけてはいろんな講義に潜り込んでみました。主に参加してみたのは学部1, 2年を対象とした数学や確率統計学の基礎を教授する講義や、上級生対象の多変量解析、生物統計といった専門科目の講義などです。基礎科目のスケジュールは週5回60分講義、もしくは週3回75分講義というのがほとんどで、さらには受講生が少人数クラスに分かれてTAを中心にディスカッションを行うことも週1回デフォルトで組み込まれています。授業の間隔を狭めることによって、忘却曲線が底に着く前にまた繰り返して学習させているかのようです。教員によっては毎週試験を行ったり、毎日レポートを課したりして、受講生が勉強せざるを得ないような状況作りを心がけているようでもあります。また、専門科目は週2回75分、もしくは90分というスケジュールとなっています。ちなみに栄陽子氏の著書、「留学で人生を棒に振る日本人」(扶桑社新書)の一節に「アメリカの大学では、有名教授が担当と表記されている講義でも実際は講義を行わず、弟子の講師や助手が行っている」との由のことが書かれてあったのですが、私が潜入した講義ではそのようなことはなく、教授の方々はすべからく開始時間に遅れることなく懇切丁寧な講義を行っていました。私が留学で

きるよう招聘していただいたEfron教授も冬学期に週2回、多変量解析の講義を担当されていました。なおEfron教授は2005年度のNational Medal of Scienceをブッシュ大統領から直々に授与されています。(授与式は2007年でした)

広大な大学は一つの市としての機能も兼ね備えており、住居、郵便局、書店、レストラン街、病院はもちろんのこと、さらには、警察や消防署、ガソリンスタンド、ゴルフ場も併設されています。

これからスタンフォード大学への研究留学を予定されている方へのアドバイスというわけではありませんが、物価は高いです。またスタンフォード大学周辺、パロアルト市の住宅事情ですが、周辺企業の一括借り上げやサブプライムローン問題による一般賃貸住宅の不足により、家賃は相当高くなっています。1ベッドルームタイプで月2500～3000ドルくらいです。

余談ですが、スタンフォード大学の年間の学費は34,800ドル(約340万円)だそうです。あまりにも高すぎるため、優秀な学生だからといってすべ

てがスタンフォードに入学できるわけでもなく、収入の低い家庭では州立の大学に通うことになるそうです。なのでスタンフォードに入学する学生の全てが初めから優秀ってわけでもないようです。数学のテストの珍解答集が掲示板に貼られていて、その間違いを見たら、「これ本当にこの大学の学生の解答なの?」と思わせるようなものばかりでした。(参照URL <http://www.ss.u-tokai.ac.jp/frame/column/Torigoe200706/index.html>)でもそのような学生でも、この大学の雰囲気にはいい意味で影響を受け、さらには周囲にいる優秀な学生に引っ張られるような形で伸びていくのではないかと思う次第です。

他にもアメリカにいるという利点を生かし、国内で開催されたいくつかの学会や研究会にも参加することができました。スタンフォードはもちろん、アメリカの風土、文化、様々な人々に出会えたこと、そして現地で得られた経験や知識をこれからの研究、教育活動の糧としていく所存です。

## 6. 評議員会議事録

### ●2006・2007年度 第4回評議員会議事録

日 時：2007年12月8日(土) 13:00-14:30

場 所：統計数理研究所 会議室

出席者：北川源四郎会長、田中勝人理事長、評議員：伊藤彰彦、稲葉弘道、川崎能典、栗木哲、栗原考次、清水邦夫、杉浦成昭、高橋一、竹村彰通、田中豊、富澤貞男、馬場康維、藤井光昭、藤越康祝、牧野都治、村上征勝、矢島美寛、宿久洋、山本拓(以上21名、委任状18通)、(オブザーバ：倉田博史、黒住英司)

冒頭、会長より、評議員会の成立が宣言され、オブザーバ2名の参加が承認された。

報告事項：

#### <議題1>理事会からの報告

田中理事長より、1) 2008年連合大会は9月に

慶応義塾大学で開催されること、2) 春季集会在2008年3月1日に成城大学で開催されること、3) これまで年次大会で開催されていた日本と韓国の国際セッションに台湾が加わり、2008年は台湾、2009年は日本で国際セッションが開かれること、4) 欧文誌の編集状況と赤池特集号が組まれる予定であること、また、欧文誌については来年度の科研費補助金の申請を行ったこと、5) 和文誌の編集状況、が報告された。

#### <議題2>春季集会について

高橋評議員より、2008年3月1日に成城大学で開催される春季集会のプログラムの概要と懇親会の計画が報告された。

#### <議題3>2007年度学会賞関係会計報告

北川会長より、資料に基づき2007年度学会賞関係の会計が報告された。

#### ＜議題4＞各委員会からの報告

##### 〔学会活動特別委員会〕

清水評議員より、資料に基づいて、9月6日に開催された委員会にて、2007年春季集会におけるアンケート結果と2008年以降の開催について議論が行われたこと、学会活動全般について意見が交換されたことが報告された。

##### 〔学会組織特別委員会〕

田中豊評議員より、日本統計学会のプライバシー・ポリシー（案）を作成したことが報告された。

##### 〔統計教育委員会〕

村上評議員より、資料に基づき2007年度の委員会活動状況が報告された。

#### ＜議題5＞75周年記念事業収支報告

山本評議員より、資料に基づいて75周年記念事業の収支決算と残額の用途について報告があった。

#### ＜議題6＞75周年記念図書出版の進捗状況について

山本評議員より、和文誌の75周年記念特集号が今後2号発行予定であること、東大出版会より出版予定の記念図書（全3巻）が2008年9月にはすべて出版される予定であることが報告された。

#### ＜議題7＞研究部会最終報告

川崎評議員より、資料に基づき、竹内光悦主査より提出された「統計教育に関するカリキュラムと教育コンテンツの国際比較研究」の最終活動報告書の説明があり、活動期間の誤植を修正したうえで承認された。また、北川会長より、今後、新たな研究部会は自発的申請があった場合のみ立ち上げる方針であることが説明された。

#### 審議事項：

#### ＜議題8＞学会プライバシーポリシーについて

田中豊評議員より、資料に基づき学会組織特別

委員会より提案された「日本統計学会プライバシーポリシー」について説明があり、審議の結果、誤字を修正のうえ了承された（即日発効）。会員には学会ホームページ及び会報により告知することが了承された。また、個人情報の更新は原則として会員本人の依頼に基づくということが確認された。

#### ＜議題9＞学会賞の新設と各賞規定案について

田中理事長より、資料に基づき現在の研究業績賞を改定して「日本統計学会研究業績賞」および「日本統計学会出版賞」を設立することが提案され、各規定案に関する説明があった。審議の結果、原案通り各学会賞の新設が了承された。なお、出版賞については当面、75周年記念事業による寄付金を基金とするが、寄付金には限りがあるため、毎年、出版賞の基金の出所を評議員会で確認することとなった。また、新設された賞の審査期間を十分確保するため、1月の会報で公示することとなった。

#### ＜議題10＞入退会者承認

川崎評議員より、回覧資料に基づき入会者が紹介された。入会者の中に卒業年度が不明の入会者がいたため、理事会で卒業年度を確認した段階で入会を了承することとなった。また、回覧資料に基づき退会者が紹介され、了承された。

#### ＜議題11＞その他

- 連合大会では関連学会に所属していればどのセッションでも発表できるため、会費の安い学会へ会員が流れている可能性があるという意見があった。
- あまり多くの賞を設立するのは問題があるという意見があった。
- 学会の法人化を将来的に検討してほしいという意見があった。

## 7. 理事会議事録

### ●2006・2007年度 第5回理事会議事録

日 時：2007年11月17日(土) 12:00～15:00

場 所：統計数理研究所 会議室

出席者：北川源四郎会長，田中勝人理事長，谷口正信（会誌編集・欧文），大森裕浩（会誌編集・和文），勝浦正樹（大会企画），宮田敏（大会企画），坂本亘（広報・会報），福地純一郎（広報・HP），高橋一（渉外・一般），橋本紀子（大会事務局担当），川崎能典（庶務会計），黒住英司（庶務会計），倉田博史（庶務会計），井上潔司（大会事務局）（以上14名，カッコ内は役割分担）

#### 報告事項：

##### <議題1>会長からの報告

北川会長より，(1) 資料に基づき，2007年度第3回および第4回連合理事会議事が報告された。(2) 2008年度連合大会については会期予定は決められているものの，開催会場の都合により，現在のところ会期は確定していないことが報告された。

##### <議題2>理事長からの報告

田中理事長より，(1) 新任理事が紹介され，現幹事の任期が確認された。(2) 12月8日の評議員会で春季集会の開催が審議されること，(3) 来年度大会より日本・韓国・台湾の国際セッションが行われること，(4) 研究業績賞の見直しが必要であること，(5) 連合大会の企画委員会が理事会後に開催されることが報告された。

##### <議題3>各理事からの報告

[会誌編集・欧文]

谷口担当理事より，(1) Vol.37, No.2および赤池特集号の編集状況，(2) 欧文誌への投稿状況が報告された。

[会誌編集・和文]

大森担当理事より，(1) 第37巻・シリーズJ・第2号の編集状況，(2) 和文誌への投稿状況，(3)

今後，特集号が続くことから，印刷費の増加が見込まれることが報告された。

[会報]

坂本担当理事より，資料に基づいて(1) HP関係の業務を福地理事に引き継いだこと，(2) 会報No.133を発行したことが報告された。また，資料に基づいて(3) 会報No.134の掲載予定項目，(4) 編集から印刷，発行までの時間短縮，(5) 記事掲載基準について説明があり，意見が交換された。

[HP]

福地担当理事より，HPに学会賞各賞の受賞者の紹介ページを追加したことが報告された。

[渉外・一般]

高橋担当理事より，春季大会は2008年3月1日に成城大学にて開催予定であることが報告された。また，春季大会の詳細について意見が交換された。

[庶務]

倉田担当理事より，資料に基づいて来年度の科研費申請を行ったことが報告された。また，川崎担当理事より，(1) 日本学術振興会による科研費実地検査が行われたこと，(2) 欧文誌Vo.37, No.2の入札準備状況，(3) 名簿作成の進捗状況，(4) 新規および完了予定の研究部会・分科会，(5) 他学協会等からの協賛・後援申し入れについて報告があった。また，黒住担当理事より，(1) 欧文誌の新規ISSNを取得したこと，(2) 著作権委譲に関する会告を会報No.133およびHPに掲載したことなどが報告された。

[大会企画]

勝浦担当理事より，2007年度連合大会の報告をHPおよび会報に掲載したことが報告された。

[大会事務局]

橋本担当理事より，理事の引継ぎが行われたことが報告された。

[75周年記念事業]

欠席の竹田担当理事に代わり，川崎理事より資

料に基づき75周年記念事業の収支決算について報告があった。

#### ＜議題4＞第75回大会・総会について

川崎理事より、75回大会・総会における留意点が報告された。

#### 審議事項：

#### ＜議題5＞学会大会における韓国、台湾との国際セッションに関する協定について

田中理事長より、資料に基づき日本・韓国・台湾の国際セッションに関する英文の協定覚書(案)が紹介され、意見が交換された。覚書(案)の英文に関しては、ネイティブ・スピーカーにチェックを依頼することとした。

#### ＜議題6＞学会賞の新設について

田中理事長より、資料に基づき研究業績賞、出版賞、ソフトウェア開発賞の新設が提案され、各賞の規程(案)が提示された。意見が交換された後、規程(案)の文言の修正を行った上で、研究業績賞および出版賞の2つの新設を評議員会に提案することが承認された。

#### ＜議題7＞入退会者の承認

川崎理事より、回収資料により入退会者について説明があり、承認された。

#### ＜議題8＞今後の会務日程について

田中理事長より、今後の会務日程について説明があり、次回理事会は2008年2月16日に開催することが決められた。

#### ＜議題9＞その他

- (1) 田中理事長より、日本学術会議の数理科学分科会からアンケートの分析に関するワーキンググループの委員の推薦を要請されていることが説明され、統計教育委員会の渡辺美智子先生に推薦の依頼を行うことが決められた。
- (2) 川崎理事より、資料に基づきJSTより2007年3月の春季集会予稿集の寄贈依頼が届いていることが説明された。意見が交換された後、JSTのデータベースへの収録は承諾した上で、資料の寄贈は2008年以降行うことが承認された。

#### ●2006・2007年度 第6回理事会議事録

日 時：2008年2月16日(土) 12:00～14:20

場 所：統計数理研究所 会議室

出席者：北川源四郎会長、田中勝人理事長、大森裕浩(会誌編集・和文)、勝浦正樹(大会企画・プログラム)、宮田敏(大会企画・プログラム)、坂本亘(広報・会報)、福地純一郎(広報・HP)、高橋一(渉外・一般)、小暮厚之(渉外・海外担当)、田村義保(渉外・プロジェクト研究)、川崎能典(庶務会計)、黒住英司(庶務会計)、倉田博史(庶務会計)

(以上13名、カッコ内は役割分担)

#### 報告事項：

#### ＜議題1＞会長からの報告

北川会長より、(1) 連合大会組織委員会(旧運営委員会)で、連合大会の開催校の選定を将来的には連合理事会で行うべきであるということが議論されたこと、(2) 連合理事会で、規程検討ワーキンググループから連合理事会の規程案が提出・検討され、一部修正の上、承認されたこと、(3) 連合理事会で、事業ワーキンググループから理事会活動の内容が検討され、統計の重要性を広く周知するためのシンポジウムの開催の必要性が報告されたこと、ならびに、教育課程に関する意見が交換されたこと、(4) 日本学術会議連携会員の推薦が近々行われること、が報告された。

#### ＜議題2＞理事長からの報告

田中理事長より、(1) 前回の評議員会で研究業績賞及び出版賞の創設が承認されたことが報告された。(2) 資料に基づき3月1日に開催される春季集会のプログラムが報告された。なお、春季集会のポスターセッションは、発表者の意向を反映させる形でコアタイムを設ける方向で調整することとなった。(3) 春季集会でアンケートを取るかどうか意見が交換され、今回はアンケートを取らないこととなった。

#### ＜議題3＞各理事からの報告

[会誌編集・欧文]

欠席の谷口担当理事に代わり、川崎理事より

(1) 欧文誌のVol.37, No.2が出版されたこと, (2) 赤池特集号の印刷の目処が年度末であること, が報告された。

[会誌編集・和文]

大森担当理事より, (1) 第37巻・シリーズJ・第2号の編集状況が報告された。(2) 春季集会発表者に原稿を依頼するよう要請があった。

[渉外・一般]

高橋担当理事より, 2009年度連合大会の開催候補校を現在検討・交渉中であることが報告された。

[渉外・海外担当]

小暮担当理事より, 資料に基づき日本統計学会と韓国及び台湾の統計学会との間で, 日本・韓国・台湾間の国際セッションに関する合意覚書が取り交わされたことが報告された。なお, ホスト国の費用負担は義務ではないもののある程度必要になる可能性があることから, 科研費の申請や積立準備金の必要性などを検討すべきであるという意見があった。

[渉外・プロジェクト研究]

田村担当理事より, 資料に基づき日本統計学会で30年後を見据えた学術ロードマップを作成することが推奨された。

[会報]

坂本担当理事より, (1) 会報No.134が発行されたことが報告された。(2) 資料に基づき会報No.135の掲載予定項目が説明され, 原稿締め切りの予定が3/25であることが報告された。

[HP]

福地担当理事より, HPの更新状況が報告された。

[庶務]

川崎担当理事より, 資料に基づき (1) 欧文誌Vol.37 (No.2) の印刷・製本契約に関する入札を行った結果, テラバブ社が落札したこと, (2) 会員名簿が発行されたこと, (3) 研究業績賞及び出版賞の推薦受付が開始されたこと, が報告された。また, 黒住担当理事より, JSTによる日本統計学会誌のアーカイブ化に関連し, 国立情報学研究所が所有する1999年から2001年の学会誌の電子ファ

イルをJSTが利用することに関する覚書および追加覚書が締結されたことが報告された。

[大会企画]

勝浦担当理事より, (1) 資料に基づき2008年度連合大会の第1回企画委員会の内容とその後の経過について説明があった。(2) 今年度の企画セッションとして, 各賞受賞者の講演を会長オーガナイザーで開くこと(120分)が決められた。(3) 今年度の大会プログラムを一部の会員に郵送にするかどうか意見が交換され, 今後の検討事項となった。(4) これまでCD-ROMで配布されていた大会予稿集をUSBメモリで配布できないか検討してほしいという意見があった。

<議題4>その他

(1) 川崎理事より, 学会活動特別委員会及び学会組織特別委員会の活動に関しては理事会との連携が必要であり, 2つの特別委員会の活動内容を理事会に報告するルートを作成する必要があることが指摘された。

(2) 川崎理事より, 学会賞に関する事務作業の分担が提案され, 和文誌担当者が一部の作業を担うこととなった。

(3) 川崎理事より, HPの更新をシステムティックに行っていく必要性が指摘され, 意見が交換された。

(4) 川崎理事より, 韓国統計学会誌のバックナンバー購入の申し込みがあるものの一部欠号がある場合には, 全額請求するのではなく, 頒布する冊数に相応する金額を請求する方針をとることが報告された。

審議事項:

<議題5>入退会者の承認

川崎理事より, 回収資料により入退会者について説明があり, 承認された。

<議題6>今後の会務日程について

田中理事長より, 2008年に評議員選挙が行われることが説明され, 評議員選挙の規程を確認の上, 次回理事会を5/10(土), 次々回を7/12(土)に開催することが決められた。

## ＜議題7＞その他

川崎理事より、日本経済学会英文年報の執筆依

頼が届いていることが報告され、過去の執筆状況を確認の上、対応を決めることとなった。

## 8. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を原稿到着順に紹介いたします。(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員, の順に記載いたします(敬称略。カッコ内は取得年月, ただし平成20年2～3月取得の場合は省略)。

### 博士論文

- (1) Dou Xiaoling (2) 博士(工学) (3) 大阪大学 (4) Studies on Functional Data Analysis Methods and Their Applications (5) 白旗慎吾
- (1) 清水泰隆 (2) 博士(数理学) (3) 東京大学大学院数理学研究科 (4) Asymptotic Inference for Stochastic Differential Equations with Jumps from Discrete Observations and Some Practical Approaches (5) 吉田朋広
- (1) 竹内久朗 (2) 博士(工学) (3) 東京理科大学 (4) 異なる性質を持つ共変量を含む生存時間解析法の研究－胃癌治療法における年代進歩の定量的評価への適用－ (5) 山口俊和
- (1) 白石 博 (2) 博士(理学) (3) 早稲田大学 (4) Statistical Estimation of Optimal Portfolios for Dependent Returns of Assets (5) 谷口正信
- (1) 小方浩明 (2) 博士(理学) (3) 早稲田大学 (4) Empirical Likelihood Method for Time Series Analysis (5) 谷口正信
- (1) 天野友之 (2) 博士(理学) (3) 早稲田大学 (4) Various Statistical Methods in Time Series Analysis (5) 谷口正信
- (1) 茅野光範 (2) 博士(数理学) (3) 九州大学 (4) Functional Data Analysis via Regularized Basis Expansions and its Applications (5) 小西貞則
- (1) 明城 聡 (2) 博士(社会工学) (3) 筑波大学 (4) A Study on the U.S. Consumers' Automobile Preferences (5) 金澤雄一郎(平成19年3月)
- (1) 西山貴弘 (2) 博士(理学) (3) 東京理科大学 (4) Multivariate Multiple Comparison Procedures among Mean Vectors and Their Conservativeness (5) 瀬尾 隆
- (1) 石垣 司 (2) 博士(学術) (3) 総合研究大学院大学 (4) Diagnostic System for Time Series Data Measured by New Sensing Approach with Statistical Signal Processing (5) 樋口知之(平成19年9月)
- (1) 福井義成 (2) 博士(学術) (3) 総合研究大学院大学 (4) 数値シミュレーションの基礎と応用の研究 (5) 土谷 隆(平成19年9月)
- (1) 山下 隆 (2) 博士(学術) (3) 総合研究大学院大学 (4) Modeling Dynamic System in Finance with Applications (5) 尾崎 統
- (1) 浜田正稔 (2) 博士(統計科学) (3) 総合研究大学院大学 (4) 通信路推定と誤り訂正による衛星デジタル放送移動受信の改善 (5) 松井知子
- (1) Siew Hai Yen (2) 博士(統計科学) (3) 総合研究大学院大学 (4) Directional Models with Applications to Environmental Data (5) 馬場康維
- (1) 白石友一 (2) 博士(統計科学) (3) 総合研究大学院大学 (4) Game-theoretical and Statistical Study on Combination of Binary Classifiers for Multi-class Classification (5) 福水健次
- (1) 本多啓介 (2) 博士(学術) (3) 総合研究大学院大学 (4) A 3-Dimensional Extension of Parallel Coordinate Plot (5) 中野純司
- (1) 熊坂夏彦 (2) 博士(理学) (3) 慶應義塾大学 (4) The Textile Plot (5) 柴田里程
- (1) 加藤昇吾 (2) 博士(理学) (3) 慶應義塾

大学 (4) Statistical Models for Data Which Include Angular Observations (5) 清水邦夫

- (1) 島津秀康 (2) 博士 (理学) (3) 慶應義塾大学 (4) A Study on Biological Data Modelling (5) 柴田里程
- (1) 川口修治 (2) 博士 (数理学) (3) 九州大学 (4) Classification of Hyper-dimensional Imagery via Boosting and Random Fields (5) 西井龍映 (平成19年11月)
- (1) 村上 亨 (2) 博士 (教育学) (3) 広島大学 (4) 高等専門学校における統計教育の改善に関する研究 (5) 景山三平
- (1) 江本麗行 (2) 博士 (経済学) (3) 名古屋市立大学大学院経済学研究科 (4) 効用無差別概念に基づくFair Priceによる気温オプションの価格付けとその応用 (5) 三澤哲也
- (1) 石岡文生 (2) 博士 (理学) (3) 岡山大学 (4) Studies on Hotspot Detection for Spatial Data (5) 栗原考次 (平成19年9月)

#### 修士論文

- (1) 井手 透 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) Estimation in some stochastic processes (5) 赤平昌文
- (1) 福島光宏 (2) 修士 (理学) (3) 筑波大学 (4) 推定におけるミニマックス性と許容性 (5) 赤平昌文
- (1) 廣谷吉昭 (2) 修士 (数学) (3) 筑波大学 (4) ベイズリスクに対する積分バッチャリヤ型下界について (5) 小池健一
- (1) 海野浩嗣 (2) 修士 (教育学) (3) 筑波大学 (4) 切断および打ち切り標本に対する最尤推定について (5) 小池健一 (1) 銭 琳琳 (2) 修士 (経済学) (3) 香川大学 (4) 長江デルタ地域における投資環境の統計分析 (5) 姚 峰
- (1) 大山哲司 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 層化標本・環境ホルモンの影響評価・hardy-weinberg平衡に関するバイオ統計学の研究 (5) 柳川 堯 (平成19年3月)
- (1) 青山淑子 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米

大学 (4) 異なる診断法を同一患者に適用して得られたデータに基づく診断法比較方法の開発 (5) 柳川 堯 (平成19年3月)

- (1) プリチャード真理 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 変数間に相関がある多次元データに対する線形判別法, 2次判別法の挙動とサポートベクターマシン (5) 柳川 堯 (平成19年3月)
- (1) 五百路徹也 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 認識に関わる脳部位の統計的探索 (5) 角間辰之 (平成19年3月)
- (1) 堤 千代 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 検診データを利用したデータマイニングの手法と保健指導への活用 (5) 角間辰之 (平成19年3月)
- (1) 林田健司 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) ワクチン抗体価の推移の統計的推定 (5) 角間辰之 (平成19年3月)
- (1) 加藤 舞 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) IPCW法における欠測確率モデル誤特定の治療効果推定への影響 (5) 森川敏彦 (平成19年3月)
- (1) 伊藤菜穂子 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 機械学習に関するバイオ統計学の研究 (5) 柳川 堯
- (1) 姜 英 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) サポートベクターマシンの変数選択 (5) 柳川 堯
- (1) 井上裕紀子 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 血中アディポネクチン濃度に対する寄与因子の探索的解析 (5) 角間辰之
- (1) 角 重喜 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) データマイニング手法によるアテローム血栓の予後モデル化 (5) 角間辰之
- (1) 樋掛剛志 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 切歯発生過程に関与するヒト・マウス・ラット間における相同遺伝子の進化的考察 (5) 森川敏彦
- (1) 井筒理人 (2) 修士 (工学) (3) 大阪大学 (4) 罰則付きスプラインにおける尤度比検定

- (5) 白旗慎吾
- (1) 上田時由 (2) 修士 (工学) (3) 大阪大学 (4) 時系列モデルと極値モデルを用いたValue-at-Riskの比較 (5) 白旗慎吾
- (1) 原田奈弥 (2) 修士 (工学) (3) 大阪大学 (4) 階層構造をもつ縦断的ポアソン-ガンマ混合モデルの研究 (5) 狩野 裕
- (1) 高橋 譲 (2) 修士 (工学) (3) 大阪大学 (4) 不均一分散モデルによる金融時系列解析 (5) 熊谷悦生
- (1) 益田友介 (2) 修士 (工学) (3) 大阪大学 (4) RegARIMAモデルによる祝日移動効果の回帰分析 (5) 熊谷悦生
- (1) 山本倫生 (2) 修士 (人間科学) (3) 大阪大学 (4) クラスタリングの導入による新たな多変量解析の研究開発-因子回転と関数データ解析へのクラスタリングによるアプローチ (5) 足立浩平
- (1) 北原孝志 (2) 修士 (工学) (3) 成蹊大学 (4) 臨床データの信頼性の研究-カッパ係数とその周辺- (5) 岩崎 学
- (1) 林 行和 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 速放剤と徐放剤を複合させた放出制御型製剤の最適設計に関する数理的検討 (5) 浜田知久馬
- (1) 岡垣琢也 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) I型打切りを伴う繰り返しイベント発現時間データの解析 (5) 浜田知久馬
- (1) 沖野邦明 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 爪白癬治療薬の臨床試験のデザインと解析に関する研究 (5) 浜田知久馬
- (1) 橋垣 学 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 生存時間を評価指標としたシームレス第II/III相試験のデザインに関する研究 (5) 浜田知久馬
- (1) 橋詰公一 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 二次性副甲状腺機能亢進症薬の適応的投与法に関する研究 (5) 浜田知久馬
- (1) 松山千恵 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 年齢を考慮した分位点回帰によるストレス得点の基準範囲の設定方法に関する研究-性差と年次変動の検討- (5) 浜田知久馬
- (1) 植松弓美子 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 骨折を評価指標とした骨粗鬆症用薬の有効性の統計解析法に関する研究 (5) 浜田知久馬
- (1) 石川公平 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 動物実験代替法のバリデーションにおける施設間再現性の評価方法に関する研究 (5) 浜田知久馬
- (1) 長島健悟 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) ハーディ・ワインバーグ不平衡を考慮したSNP解析の性能比較 (5) 浜田知久馬
- (1) 大内喜海 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 2重対数プロットに基づく比例ハザード性の検証方法の改善・拡張に関する研究 (5) 浜田知久馬
- (1) 浅野淳一 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 国際共同治験の症例数設計に関するISEL試験に基づいた事例研究 (5) 浜田知久馬
- (1) 石井祐次 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) ノンパラメトリック検定に基づいた重要な因子をバランスさせる被験者割付法の提案と性能評価 (5) 浜田知久馬
- (1) 酒匂真美 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 非線形混合モデルにおけるパラメータに関する推測 (5) 百武弘登
- (1) 島本大輔 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) コントロールと相関のある処置群との多重比較 (5) 百武弘登
- (1) 前山裕亮 (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) Preliminary test estimation for spectral and its applications to financial hedging problem (5) 谷口正信
- (1) 畑井一兵 (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) Statistical testing for asymptotic no-arbitrage in financial markets (5) 谷口正信
- (1) 大東純司 (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) Periodogram of Non-Gaussian Sequence for Extreme Value Theory (5) 鈴木 武

- (1) 曾根健一 (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) The asymptotic behavior of multiple roots of the likelihood function (5) 鈴木 武
- (1) 清水順平 (2) 修士 (理学) (3) 早稲田大学 (4) EM Algorithm (5) 鈴木 武
- (1) 後藤康太 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) 基底展開法に基づく非線形一般化混合モデリング (5) 小西貞則
- (1) 立石正平 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) ベイズ型偏差情報量規準DICによるモデル選択 (5) 小西貞則
- (1) 三池大輔 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) ベイジアン構造方程式モデリング (5) 小西貞則
- (1) 廣瀬 慧 (2) 修士 (数理学) (3) 九州大学 (4) ベイズアプローチに基づく因子分析モデルの推定 (5) 小西貞則
- (1) 服部彰夫 (2) 修士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) 漸近展開の方法による与信ポートフォリオVaRの近似計算 (5) 吉田朋広
- (1) 上條将弘 (2) 修士 (数理科学) (3) 東京大学 (4) チーム比較におけるBradley-Terryモデルとその拡張, およびその発展 (5) 吉田朋広
- (1) 千田 敏 (2) 修士 (理学) (3) 東京工業大学 (4) 確率的言語モデルを用いた源氏物語のテキスト分析 (5) 間瀬 茂 (平成19年9月)
- (1) 世木辰典 (2) 修士 (理学) (3) 東京工業大学 (4) 線形混合モデルの応用について (5) 間瀬 茂
- (1) 山根翔太 (2) 修士 (理学) (3) 東京工業大学 (4) 地震の震度予測に対する階層的ベイズモデルの応用 (5) 間瀬 茂
- (1) 臼田憲司 (2) 修士 (理学) (3) 東京工業大学 (4) 共変量データが大量にある場合のコクリギング法の研究 (5) 間瀬 茂
- (1) 熊谷和也 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) On the Test for Equality of Two Covariance Matrices in Familial Data (5) 瀬尾 隆
- (1) 千代岡那王 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Likelihood Ratio Tests for Covariance Matrices with Missing Data (5) 瀬尾 隆
- (1) 浜本功司 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Asymptotic Distribution of Test Statistic for Covariance Matrices in k-sample Problem with Missing Observations (5) 瀬尾 隆
- (1) 石河敦子 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 対数線形モデルと多重対応分析による縦断的カテゴリカルデータ解析-女性のライフコース分析- (5) 田中 豊
- (1) 橋本 登 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 関連解析における多変量QTLへの拡張 (5) 田中 豊
- (1) 林 邦好 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 多変量解析法の統計的性質に関する研究-主成分分析における軸の回転と部分空間法における影響診断に関する研究- (5) 田中 豊
- (1) 水戸 藍 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 情報量基準とその応用 (5) 木村美善
- (1) 棚瀬暁俊 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 線形回帰におけるMM-回帰推定量とロバスト・ブートストラップ法 (5) 木村美善
- (1) 澤田謹志 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 回帰分析の理論と応用-最深回帰推定量を中心に- (5) 木村美善
- (1) 武山嵩弘 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) ロバスト・リッジ回帰推定量の研究 (5) 木村美善
- (1) 佐野正明 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) 実験計画法のためのフリーソフトウェアの研究 (5) 松田真一
- (1) 棚橋昌也 (2) 修士 (数理情報学) (3) 南山大学 (4) AICの多重比較法によるモデル集合の研究 (5) 松田真一
- (1) 原田 剛 (2) 修士 (情報科学) (3) 北海道大学 (4) 潜在意味解析と線形判別関数を用

- いたテキスト分類に関する研究 (5) 水田正弘
- (1) 星加英康 (2) 修士 (情報科学) (3) 北海道大学 (4) 関数データ解析法を用いた放送楽曲データの特徴抽出に関する研究 (5) 水田正弘
  - (1) 倉上弘幸 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Contaminated Normal Type Symmetry Model and Decomposition of Symmetry for Square Contingency Tables (5) 富澤貞男
  - (1) 小林広嗣 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Conditional Marginal Cumulative Logistic Models and Decomposition of Marginal Homogeneity Model for Multi-way Tables (5) 富澤貞男
  - (1) 笹島隆義 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Expected Mean Squared Error of Estimators for Symmetry and Asymmetry Models for Contingency Tables (5) 富澤貞男
  - (1) 高沢 翔 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Collapsed Symmetry Model and Its Decomposition for Multi-Way Tables with Ordered Categories (5) 富澤貞男
  - (1) 富里遼太 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) An Improved Approximate Unbiased Estimator of Log-Odds Ratio for  $2 \times 2$  Contingency Tables (5) 富澤貞男
  - (1) 鈴木彬夫 (2) 修士 (経済学) (3) 富士大学 (4) 「ゆとり教育」と「算数・数学の学力低下」に関する一考察 (5) 早川 毅
  - (1) 内田 篤 (2) 修士 (理学) (3) 慶應義塾大学 (4) 成長に関する増山理論の検証 (5) 柴田里程
  - (1) 櫻沢研一 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) サポートベクターマシンによる悪性黒色腫診断 (5) 清水邦夫
  - (1) 杉田知格 (2) 修士 (理学) (3) 慶應義塾大学 (4) Charlier級数分布および非心負の二項分布の拡張に関する研究 (5) 清水邦夫
  - (1) 高田洋佑 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) 風向データ解析における隠れマルコフモデルの利用 (5) 清水邦夫
  - (1) 西内 翔 (2) 修士 (理学) (3) 慶應義塾大学 (4) 一般化パレート分布による確率点近似の誤差評価 (5) 柴田里程
  - (1) 宮澤祐紀 (2) 修士 (工学) (3) 慶應義塾大学 (4) HTML文書に埋め込まれたデータの高度利用 (5) 柴田里程
  - (1) 吉田美里 (2) 修士 (理学) (3) 慶應義塾大学 (4) 基準化された2次形式を最大にする非負解を求めるために用いられるアクティブセットアルゴリズムの収束条件 (5) 柴田里程
  - (1) 末久千鶴 (2) 修士 (教育学) (3) 広島大学 (4) 離散思考を中心とした数学的活動の展開－教材化を通して－ (5) 景山三平
  - (1) 林 長青 (2) 修士 (経済学) (3) 名城大学 (4) 因子分析による銀行の競争力の評価 (5) 勝浦正樹
  - (1) 深沢亜弓 (2) 修士 (経済学) (3) 一橋大学 (4) ジャンプおよびマイクロストラクチャーノイズを考慮した日経平均株価指数におけるRealized Volatilityの予測力の比較 (5) 渡部敏明
  - (1) 三島鷹志 (2) 修士 (経済学) (3) 一橋大学 (4) GARCH型モデルを用いたイントラデイボラティリティの推定と予測 (5) 渡部敏明
  - (1) Dranun Jamsai (2) 修士 (経済学) (3) 一橋大学 (4) Estimation of Japanese Business Cycles Through Comparison With Markov-Switching Model (5) 渡部敏明
  - (1) 古賀優一 (2) 修士 (環境学) (3) 岡山大学 (4) 岡山市住宅土地価格に関する統計的分析 (5) 栗原考次
  - (1) 横山周太 (2) 修士 (環境学) (3) 岡山大学 (4) 航空機故障の要因データマイニング (5) 栗原考次
  - (1) 吉井陽一 (2) 修士 (経済学) (3) 名古屋市立大学 (4) 利回り格差に見る地方債市場の変化 (5) 程島次郎
  - (1) 山本麻揮 (2) 修士 (学術) (3) 神戸大学 (4) 多重比較におけるウィリアムズ法に関する

研究 (5) 稲葉太一

- (1) 野村拓矢 (2) 修士 (学術) (3) 神戸大学 (4) データのズレが最小 2 乗法の推定精度に与える影響の研究 (5) 稲葉太一
- (1) 増田智己 (2) 修士 (経済学) (3) 東京大学 (4) Lasso 分位点回帰の理論と損害保険への応用 (5) 国友直人
- (1) 石原庸博 (2) 修士 (経済学) (3) 東京大

学 (4) Bayesian inference of multivariate stochastic volatility models with leverage effects (5) 大森裕浩

- (1) ニヤムバーエルデムバト (2) 修士 (経済学) (3) 東京大学 (4) 線形混合モデルにおける F 検定統計量の漸近補正について (5) 久保川達也

## 9. 研究集会案内

### ● IASC2008 へのお誘い

IASC2008 国際組織委員会 委員長  
中野純司 (統計数理研究所)

会議名称:

IASC 第 4 回世界大会・第 6 回アジア大会合同  
国際会議 (IASC2008: Joint Meeting of 4th World  
Conference of the IASC and 6th Conference of the  
Asian Regional Section of the IASC)

日時: 2008 年 12 月 5 日 (金) ~ 12 月 8 日 (月)

会場: パシフィコ横浜

主催: IASC2008 国際組織委員会, 日本計算機統計学会, 統計数理研究所

後援: 神奈川県, 横浜市, 日本統計学会, ほか  
関係学会・団体

基調講演者:

- ・ Trevor Hastie (Stanford University, USA)
- ・ Ker-Chau Li (Academia Sinica, Taiwan, and UCLA, USA)

ウェブページ: <http://www.iasc-ars.org/IASC2008/>

標記の国際会議を上記の要領にて開催いたします。2 名の基調講演, 4 名の招待講演, 30 以上の招待セッションを予定しており, 計算機統計学に関する国際会議としての充実した企画となっております。

4 月 1 日より一般投稿論文の受付を, 4 月 21 日より参加登録の受付を開始いたしました。日本統計学会の会員の皆様は Member 価格で参加することができます。ご参加・ご投稿を心よりお待ちしております。

また, 本会議に対して皆様からの賛助のご協力をお願いしております。詳細は

<http://www.iasc-ars.org/IASC2008/sanjo/index.html>  
に載っております。本会議の趣意ならびに諸事情をご賢察いただき, ご支援を賜りますよう, よろしく願い申し上げます。

## 10. 新刊紹介

本会会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を, 原稿の到着順に掲載します。

- Masanobu Taniguchi, Junichi Hirukawa & Kenichiro Tamaki "Optimal Statistical Inference in Financial Engineering" Chapman & Hall/CRC (2008)  
局所漸近正規性に基づく時系列の最適推測論

を基礎とした統計的金融工学の解説書, 初歩の確率, 統計および時系列入門からはじまり, 最近の現代的な話まで言及しているのが特長。

- 鈴木武・山田義雄・柴田良弘・田中和永  
「理工系のための微分積分 I」(税込 2,940 円)  
2007 年 4 月

「理工系のための微分積分Ⅱ」(税込2,940円)  
2007年11月  
「理工系のための微分積分・問題と解説・Ⅰ」  
(税込1,680円) 2007年5月

「理工系のための微分積分・問題と解説・Ⅱ」  
(税込1,680円) 2007年12月  
いずれも内田老鶴圃

## 11. 学会事務局から

### 学会費払込のお願い

2008年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

### 学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F  
財団法人統計情報研究開発センター内  
日本統計学会係  
Tel & Fax : 03-5467-0483  
E-mail : shom@jss.gr.jp

### 訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を

表し、御冥福をお祈り申し上げます。

青山 博次郎	名誉会員
伊藤 孝一	名誉会員
米田 桂三	名誉会員

### 退会承認

海老原渉, 遠藤輝, 遠藤薫, 上村英樹, 菊池正, 蔵野正美, 櫻田忠衛, 正法地孝雄, 古谷ゆかり, 松浦寿幸, 山添史郎, 山本成志, 渡辺一男, Anthony Hayter (敬称略)

### 現在の会員数 (2008年4月7日)

名誉会員	20名
正会員	1,443名
学生会員	32名
総計	1,495名
賛助会員	17法人
団体会員	4団体

## 12. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

### ● 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人などをお知らせください。

### ● 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得

年月をお知らせください。

### ● 求人案内 (教員公募など)

### ● 研究集会案内

### ● 新刊紹介

著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし, 主観的な表現は避けてください。

できるだけe-mailによる投稿, もしくは, 文書

ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

**原稿送付先：**

〒560-8531 大阪府豊中市待兼山町1-3  
大阪大学大学院基礎工学研究科 数理科学領域  
坂本 亘 宛  
Tel & Fax：06-6850-6481  
E-mail：koho@jss.gr.jp  
(統計学会広報連絡用e-mailアドレス)

- ・統計学会ホームページURL：  
<http://www.jss.gr.jp/>
- ・統計関連学会ホームページURL：  
<http://www.jfssa.jp/>
- ・75周年記念事業ホームページURL：  
<http://www.math.chuo-u.ac.jp/~sugiyama/jss75>
- ・住所変更連絡用e-mailアドレス：  
[meibo@jss.gr.jp](mailto:meibo@jss.gr.jp)
- ・広報連絡用e-mailアドレス：  
[koho@jss.gr.jp](mailto:koho@jss.gr.jp)
- ・その他連絡用e-mailアドレス：  
[shom@jss.gr.jp](mailto:shom@jss.gr.jp)